おわりに

市民と進める生物多様性保全

日本産の野生維管束植物（シダ・裸子植物、被子植物等からなるグループ）には約7,000種類があるが、2012年に発表された環境省のレッドリストでは、すでに42種類が絶滅、それ以外の1,779種類が絶滅の危機に瀕すると報告されている。これは日本の植物の約25%に当たる数値であり、かけがいのない多くの植物の多様性が失われつつあるという深刻な状況を意味している。現代の地球上では通常の1,000倍の速度で生物が絶滅しているとされているが、日本の野生植物も例外ではない。

新潟県は、12,581.75㎢と全国で5番目に広い面積を有し、約3,000種類の植物が自生する豊かな自然を誇る。しかし、県内でも350種類の植物が新潟県の絶滅危機植物に指定されているのが現状である。

県の南東部に位置する魚沼市は、福島県と群馬県に隣接し、尾瀬にも近く、豊かな自然を誇る地域として知られる。946.93㎢という広大な面積と、高低差2,067メートル(最高点2,141m、最低点74m)の中に多彩な地形を有し、そこに広がる里地や里山、山岳、湿地、河川、湖沼などの環境には多様な植物が分布する。

魚沼市制施行5周年にあたる平成21年には、「自然環境都市」が宣言されたが、魚沼市の自然環境については、ほとんど調査が行われておらず、その姿はほとんど明らかになっていなかった。

オキナグサの保全

平成16年の中越大震災で、絶滅危惧植物である魚沼市のオキナグサの自生地も斜面が崩壊するなど、大きな被害を受けた。このため、新潟県立植物園が依頼を受けて、地元の小学校や山草会と協力し、崩壊した自生地からのオキナグサの移植、また自生地の修復後の植え戻しを行った。

その後、平成20年、21年度には環境省生息域外保全モデル事業（地域の協働参画モデル）として魚沼市のオキナグサの保全事業が選定され、植物園と地元小学校や市民との協働により、開花調査や種子採取、育苗、植え戻しまでを行うなどの大きな成果をあげた。

その集大成として平成21年12月に200名以上の市民の参加のもと「魚沼市生物多様性保全シンポジウム」が開催された。パネルディスカッションでは、これまで魚沼市は植物の調査が不十分であるため、希少な植物が発見される可能性が大きいこと、調査には行政だけではなく市民の参加が重要であることが確認された。

明らかになる魚沼市の自然環境

これらの保全活動を受けて、魚沼市は平成22年に、いかにして自然を守り、利用するかを検討するために、環境保全調査委員会を組織した。当園も委員として参加し、1年間に渡り議論と作業を重ね、市内の植物調査が一部の地域を除いてほとんど行われていないこと、まずは自然環境の特性を明らかにすることが必要と結論し、調査方針、方法、調査地の選定等について検討を行った。

昨年度は、魚沼市が市民や植物園等の関連機関と協力して、里地、里山、水辺など、人の生活圏の近い13か所で176回の現地調査を行った。昨年度は1地区当たり約300種類を確認し、全体で約500点の標本を採集するなどの成果をあげている。その成果は、「魚沼市植物相調査中間報告書　自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査」（2012 魚沼市）に取りまとめらている。

継続的な調査によって、現在までに742種類の植物の分布が確認され、魚沼市の植物相が徐々に明らかになってきている。また、今年度より野鳥、昆虫の調査も加わり、総合的な魚沼市の自然環境調査がスタートしたことは、非常に喜ばしいことである。

継続的な調査の必要性と今後の展開

先日、野生では絶滅したコシガヤホシクサのシンポジウムが茨城県下妻市で開催され、ここで魚沼市の保全活動の事例発表を行った。そこで感じたのが、魚沼市の保全活動が市民参加型の活動として市内全域の自然環境調査にまで広がっていることは、他の地域では見られない先進的な事例だと言うことである。

自然環境調査は長期間継続してこそ、生物相やその変化が解明される。また、今後は何を優先的に、どう守って行くべきか、市民の理解をどう深化させるかを検討する必要があると考えている。

さて、日本植物園協会では、全国の植物園、市民団体、研究機関等との協働により植物多様性保全拠点園ネットワークを構築し、主に自生地での種子を採集することにより2012年５月までに日本産の絶滅危惧植物種（7,000種類）の63.66%にあたる1,076種類を保有するに至っている。現在、2020年目標を掲げ、日本産絶滅危惧植物種の75 %（1,268 種類）を日本の植物園において収集するべく保全活動を推進している。

魚沼市の市民参加型の保全活動によって、自然環境が明らかとなり、さらには日本の植物を守る活動につながることを期待している。

2013年3月

㈳日本植物園協会 植物多様性保全委員会
新潟県立植物園　倉重祐二

魚沼市自然環境保全事業

平成24年度魚沼市自然環境保全調査報告書

－自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査－

平成25年3月29日　第1刷発行

平成26年3月31日　第2刷発行

編集　魚沼市環境課環境対策室　TEL 025-792-9766　FAX 025-792-9500

監修　元新潟大学教授　石沢　進

新潟県立植物園副園長　倉重祐二

魚沼市教育委員会教育次長　富永　弘

発行　魚沼市（魚沼市小出島130番地1　〒946-0011）

調査　特定非営利活動法人　野外教育学修センター　魚沼伝習館

協力　魚沼自然大学、小出野鳥の会、新潟県立植物園、魚沼市教育委員会、魚沼・小千谷地域理科教育センター

現地調査

○調査員（調査リーダー）

（植物）貝瀬正俊　桜井昭吉　小熊政元　小熊敏一　星昭　大原志津子　大原主計　田中ミチ子　武藤光佳　和田齊

（鳥類）桑原和寿　角屋禮士　柳瀬昭彦　桑原景子　佐藤武

（昆虫）横山正樹

○市民ボランティア

青木美代子　浅井もと子　浅井玲子　井上美知子　大桃好子　川井けい子　佐藤郁子　佐藤篤司　高橋新一　坂大守　星兼治

○調査総括

特定非営利活動法人　野外教育学修センター　魚沼伝習館